

コネクション

The Connection

Bringing Together Students and Faculty Since 1998

モンテグ&アソシエート
CEO: Mr. Jeffrey Montague

-メイン・キャンパス-

会長-Anthony Giratore
副会長-Kristine Bompadre
広報部- Chair: Rachel Frankwich Associates: Irina Burakovsky, Morgan Finkelstein, Zachary James, Misuzu Mori, Jared Price, Angel Torres
経理部- Chair: Eunice Muya Associate: Eric Gillman
会議、会員部- Chair: Marcus Lambert Associates: Laurie Harrelson, Ashley Roucroft, Ira Young
ファンドレイズ部- Chair: Jessica Carolina Associates: Travis Lentz, Robert Licata, Billy Plichta, Isaac Satten, Katelyn Wild, Reiri Yamaski
人事部- Chair: Sara Nolan Associates: Jason Colon, Christina Deckhut, Scott Grissell
マーケティング部- Chair: Christopher Fields Associates: Dana Dommermuth, Kadie Grisola, Tahoe Kim, William Koskinen
プロジェクト部- Chair: Kacee Lawver Associates: Kristine Bompadre, Anthony Delgott, Ryan Ganley, Maiko Iwasaki, Chou Lee, Lauren Quick
スポンサーシップ部- Chair: Kristin Youse Associates: Marisa Judge, Mark Kniley, Chuck Young
ボランティア部- Chair: Mark Vasquez Associates: Lisa Katzmar Curtis Kaucher, Momoko Yoshida

-センターシティー・キャンパス-

会長-Mackenzie Tolliver
副会長-Bethany Whitstone
広報部- Chair: Jessica Stern Associates: Oana Bugariu, Mike Burns, Danielle Goffredo, Asuka Hara, Timothy Lilley
経理部- Chair: Jenna Heasley Associate: Thomas McNicholas
会議、会員部- Chair: Jason Jiau Associates: Kim Berardi, Leanda Rinehart
ファンドレイズ部- Chair: Catherine Morris Associates: Chris Baker, Louise Castellano, Jared Corra, Kelly Golderer, Alison Williams
人事部- Chair: Kym Langham Associates: Mike McMahon, Viviane Rabelo
マーケティング部- Chair: Eliza Stasi Associates: Colin Dempsey, Becca Fest, Jessica Hummel, Kerry Houck
プロジェクト部- Chair: Michael Goldstein Associates: J'hannel Becoat, Becky Cohen, Toshiaki Enoki, Tristen Gabel, Allison Perlstein
スポンサーシップ部- Chair: Nicole Ouimet Associates: Alexis Hahalis, Jeremy Mortoroff, Jessica Smeriglio
ボランティア部- Chair: Antonio Sciuilli Associates: Diana Ciglar, Joy Okoro

会長からのメッセージ

こんにちは。

新入生のみなさん、そして夏休みを経てキャンパスに戻ってきたみなさん、テンプル大学観光ビジネス学部、ニュースレター、コネクションへようこそ。

このニュースレターでは、テーマを世界で起こっている事柄などを焦点におき、世界と自分がどう関係しているかという名目で展開していきます。グローバル化の影響は、例えば、私たちが運転している車、スーパーなので購入する商品、毎日口にしていく食べ物と常に私たちの生活に浸透し、その多くの物や商品は、私たちと世界を繋ぐ架け橋の役割を果たしています。私たち、テンプル大学の生徒は、クラスとインターンシップでの経験を通して国境を越えて世界へと歩んでいきます。

このシニアセミナークラス、メインキャンパスとセンターシティーキャンパスは、学期をスタートさせることとともに、優秀な社会人になるための挑戦という名の旅に希望と興奮を抱いております。クラスのメインイベントとして、11月7日にキャリアデイ、12月7日にセミフォーマルを予定しており、両イベントは、生徒達にその分野で活躍している企業へのネットワーキングを築く重要な役割を果たしています。

今、テンプル大学のシニア生としてここに立ち、その4年間の旅を終えようとしています。しかし、その旅は、キャリアという新たな旅の出発地点でもあるのです。キャリアデイは、学生達にいくつもの職業の選択肢を与え、将来、彼らの人生に花を添えることになるでしょう。始めに申したように、私たちシニア生は、新入生、そしてテンプル大学で今まで勉強をしてきた学生に呼びかけ、彼らを次の将来への一歩へと導いていきます。

私たち、シニアセミナークラスの会長としてこの学期を爽やかな充実したものになりたいと思っています。

メインキャンパス、社長
Anthony Giratore

センターシティーキャンパス、社長
Mackenzie Tolliver

Inside this issue...

Cultural Awareness.....	2-3
Leisure.....	4-5
Tourism/Travel.....	5-7
International Sport.....	7-10
Featured Professional/Organization.....	10-12

Cultural Awareness

文化とエチケット

By: Eliza Stasi

他国の文化を理解することは、その旅行の目的がビジネスであるか個人旅行であるかどうかに関係なく、非常に重要なことである。今年の夏、私がイタリアへ旅行した際、私はアメリカとヨーロッパ各国の文化の違いに注意をはらった。観光ビジネスへ進路を進める私たちの多くは他国に対する尊敬と理解の心を持ち、その国の文化やマナーを学ぶ必要がある。

ギリシャでは、頭を縦に振り「はい」とうなずいたり、「いいえ」と頭を横に振る行為は失礼な表現に値する。またギリシャの文化において、頭を上にする行為は「いいえ」、頭を横に傾ける行為は「はい」として理解されている。その他にも、アメリカ人がよく行う親指を立てるサインは、アメリカにおいて「賛成の意」を示すが、ギリシャでは卑猥なジェスチャーと捉えられる。

固い握手が自信と強さを表すことを、私はジュニア・インターンシップのエチケット・ワークショップに出席した際に学んだ。常に固い握手をすることは、ビジネス業界では大変大切であると今回の講演者は強く主張していた。しかしながら、この挨拶の形態はアメリカ国内では通用するが、海外の各国、各文化には独自の挨拶形態が存在する。イタリアへ出張で出かけたならば、握手ではなく両頬にキスをされることであろう。香港では、アメリカでよく使われる強くて固い握手は、それほど一般的ではない。ほとんどのビジネス会議では、握手のように体を使った挨拶が必要とされるが、その形態は国ごとに様々である。例えば、インドでは互いを歓迎する際、「ナマステ」という挨拶が使われる。「ナマステ」とは手の掌を胸の前で合わせ、頭をわずかに傾け会釈する、インド独特の挨拶である。

多くのアメリカ人は、個人のスペースを非常に大切にし、一定の線を越えられる事を嫌う。スウェ

ーデンでビジネスを行う際、そのスペースへの配慮が非常に重要となってくる。スウェーデンには『パーソナル・バブル』という非常に強い概念があり、スウェーデン人は互いに個人のスペースに踏み込まないよう強く配慮する。一方で、イタリアでは近い距離でのコミュニケーションが好まれ、相手と距離をとることは、失礼であるとみなされている。

世界中において、他の文化について学ぶ事は、ビジネスに限らず、日常生活においても、非常に重要なことである。私たちが生きるこの世界を築き上げている、他の人々のことをより知ることは、他文化がどのように成り立っているのかを理解するために必要不可欠である。これらの新しい知識は、他の文化からの尊敬と支持を得るために必要な基盤を私たち与えてくれる。さらに文化とエチケットを学びたいければ、「www.ediplomat.com」を訪れるか、10月9日に観光学部により「エチケット・ディナー」が催されるので参加することをお勧めする。

成功へのパスポート

By: Kelly Golderer

今日、国境を自由に行き来できる器量は、以前よりもまして社会に出る際必要となっていており、多くの企業は、その人材とともに海外へ続々と進出しつつあります。

パスポートを所有していることは、アメリカ社会では「海外へのビジネス出張もできます」と、企業に対して意思を表示していることであり、海外出張を依頼された際、「喜んで会社のために渡航し、海外交流を他の企業と行ないます。」ということを示します。またパスポートは、「新しい文化に興味があり、異文化交流もします」と世界に伝える役割も担い、最近の社会の傾向として、より良い国際的な労力を多くの人に提供するために、パスポートはいまや不可欠なものとなってきました。

米務省によるパスポート政策のため、パスポートの申請がより重要となっており、パスポートの手続きを今始めることは、将来の急な海外渡航への不安や心配を大幅に削減し、今日リーダーシップをとるにあたって必要とする二つの特性、熱意と計画性がパスポートを取得することへ第一歩へつながることを物語っています。

パスポートを一度手にすると、次はそれを有効な状態に保っておくことが重要になります。パスポートにも有効期限があり、私はそれを去年の夏、身をもって体験しました。海外旅行の計画にあたって、私はその当時すでにパスポートを持っていたので、旅行に必要な他の書類だけを確認していました。ところが私の旅行計画していたすべてが、空港で不意に中断されたのです。Milwaukee 空港のチェックインカウンターで待っていた私に、グランドホステスが近寄ってきて、パスポートが有効でないため、出国できないと告げるのです。もし、私が、もう少し念入りに旅行に必要な書類、そしてパスポートの有効期限を確認していれば、お金と時間を大幅に節約できたことでしょう。空港からシカゴへ戻った私は、パスポートの手続きを迅速に進め、次の日、日本へと無事旅立つことができたのです。皆さんには、こ



の事態陥ってほしくありません。何度も述べているように、パスポートを所持することは、このグローバル社会においてとても重要なことなのです。

何事も前もって成し遂げる。それは、確実にあなたの将来への成功を約束します。パスポートの申請は、テンプ

ル大学の Office of International Services でできます。手続きを始めるにあたって、まずは予約を取らなければなりません。次に、戸籍抄本、写真付身分証明書、パスポート用の写真2枚、それと最後に小切手で合計97ドルを用意します。

詳しいお問い合わせは、アメリカ外務省のホームページで確認してください。

世界的機会：テンプル大学から海外へ

By: Mike McMahon

テンプル大学には、4つの異なる大陸へ留学することのできる魅力的なプログラムがある。日本、スペイン、フランス、イタリア以外にも、留学のできる地域は様々あり、学業以外にも新しく刺激的な文化を経験する貴重な機会が整えられている。11月13日火曜日に行われる、「第二回テンプル国際会議」(Second Annual Global Temple Conference)では、これらの素晴らしい機会を記念する予定である。会議では世界中のテンプル大学生、スタッフ、教授とそのプログラムを、パネルディスカッション、ポスターセッション、映画そして展示を用い、「研究学問」、「芸術的な創造力」と「地域奉仕活動」という優秀な3つのポイントを強調し、議論される。

「国際教育」、「国際研究」そして「国際化」は、学生、教授そしてスタッフが幅広い種類の革新的、また国際的な影響のあるプログラムを発表する際の重要な3つのテーマであり、この発表を通して「国際利害」、「プログラムにより作られる国際的ネットワーク」、そしてこれらにより引き起こされる影響が議論される。テンプル大学はこの世界的経験から、我々の大規模な会議に出席するため来国する多数の外国人学生をここフィラデルフィアで迎える事になり、最も多様な学生人口を誇る大学となることになる。アメリカの学生の多くは、新しい世界を学び、知識を広げるため、海外へ旅行することが常である。

11月13日 Howard Gittis Student Center で行われる「第二回テンプル国際会議」(Second Annual Global Temple Conference)は、新しい文化や海外経験に興味のある誰をも対象とし、会議は朝から、午後遅くに行われる世界中からの音楽パフォーマンスをテーマとした「国際テンプルライブコンサート」(Global Temple Live Concert)で幕を閉じる予定である。この他にもテンプル大学は様々な機会を学生達に提供しており、これはその代表的な機会の1つにすぎない。

www.temple.edu/studyabroad/globaltemple/conference.html

Leisure



オールイン

By : Isaac Satten



東アフリカで氷の上をすべる

By: Eunice Muya

パナリスカイ・センターは、東アフリカ、ケニアのナイロビで、アイス・スケート場を新規オープンした。センターは現在、1万5千平方フィート、200人収容可能なソーラー・アイスリンクを完備し、期待と不安に満ちたケニア人をアイス・スケートの魅力で夢中にしている。パナリスカイ・センターは、スケート場以外にも豪華な宿泊施設（リンク使用客が簡単にアクセスすることのできる136室完備されたパナリ・ホテル）が隣接している。ケニアの観光セクターは、ケニアの経済に一番重要な役割を演ずるほどの収益を生み出しており、パナリスカイ・センターのような施設は、居住者と国際観光客に対し、地域発展の重要な助けとなっている。

多くの者には、東アフリカのアイス・スケートリンクについての考えは話がうますぎるように聞こえるであろう。また、長期で見たこの施設パフォーマンスに対する質問が沢山上げられることと思われる。1時間、大人ケニア800シリング（12ドル）、子供ケニア500シリング（7ドル）かかるリンク使用料は、大部分のケニア人にとって手が届かない料金であり、スケート・リンク自身本来、裕福な観光客を含む一般住民を対象として造られたかどうかを問う必要がある。しかしながら、施設がまだ新しく珍しい事から、人々の間に料金を払う気がないという徴候は無く、今現在、ナイロビ（ケニア）のアイス・スケートリンクは、人々の人気と好奇心を惹きつづけている。



ポーカーワールドシリーズが、これまではアメリカでのみ行われていたものが世界的に展開し、それが今回初めて国際的イベントとしても認識された。このポーカーワールドシリーズにあたって、ラスベガスのホテルで6月の1日から7月

16日まで行われており、トーナメントは続いて、大西洋を越えヨーロッパで行われた。このイベントの開催にあたり、開催地であるイギリスのロンドンは、カジノ大英帝国と名をはした。

アメリカで行われるポーカーワールドシリーズとは違い、ヨーロッパでのポーカーワールドシリーズは、アメリカ大会で55種のゲームを6週間という長期にわたって行われるイベントをわずかに、3種にまとめてしまいます。そのうちの2大会は、人気のポーカーゲーム、H.O.R.S.E.とPot Limit Omahaであり、勝者は、ヨーロッパ人でした。3つ目である、最大のイベント No-Limit Texas Hold Em' の他のゲーム種と比べゲームがダイナミックに展開する。

このポーカーワールドシリーズでの最も若い勝者とされるノルウェー出身の、Annette Obrestad が、二億二千四百八十一万六千円と栄冠を手を岐路に向かった。「この光景に、言葉を失っています。自分でも優勝するとはおもいませんでした。」と締めくくっており、この大会での勝者として彼女は、2つタイトルを保持しています。一つは、女性として、もっとも多く稼いだこと、そしてもう一つは、斡旋勝利だったことです。

ヨーロッパ大会での彼女の出現により、たくさんの挑戦者が現れ、「ポーカーは、男のゲーム」という時代は、もうすでに終わったようです。勝利のためには、頭がきれること、そして少しばかりのお金が必要となり、今年度の勝者 Annette は、ルールにより2010まで、大会の参加できないことになっています。実際、過去三度の優勝者は、年々若くなってきており、このワールドシリーズで、ポーカーがスポーツとレクリエーションの架け橋を担い、アメリカからヨーロッパへとグローバルに今繰り広げられています。世界的なゲーム、ポーカーは、人気とともに広がりこれから

も世界に知られることでしょう。おめでとう、Annete！三年後のアメリカでの大会で、待っているよ。

Tourism & Travel

Beautiful India?

By: Kacee Lawver

インドは香辛料の地として千年もの歴史を誇る国であり、また様々な色が生活に混ざったエキゾチックな文化としても知られている。この理想郷は、明るく美しい人生と、道端にたたずむ像という印象で世界中に知られている。しかしながら本来のインドは、このような人々の抱く魅惑的なイメージとはまったくかけ離れている。途上国として、近年盛んになってきた観光業を中心とした資本主義国家へと移り変わろうとしている。発展をしていく中でもまだ、低収入層の存在や、非平等的な財的制度は継続されている。



©EnchantedLearning.com

この1月私は、テンプル大学経営学部 (Fox School of Business) 主催の「デスティネーション・インド・プログラム」(Destination India Program)に参加し、インド、ゴアのムンバイに10日間滞在した。プログラムでは、インドの国際化に向けての事業文化の発展や、経済の発展を学ぶことが趣旨であった。経済の発展に際し、観光業は避けることのできない大切な要因である。今までも、そしてこれからも、インドの観光業は発展し続けているが、国際的な観光開発に際しては、まだまだ様々なハードルを乗り越えていく必要がある。西洋の基準を満たしたホテルや道路、飛行場、まだまだインドの貧しい社会生産基盤にとって、難しい課題である。

インド政府は、国際観光開発にあたり、ゴアといった特定の地域に力を注いでいる。ゴアはインドのほかの地域に比べて、比較的発達している都市で

あり、リゾートなどの西洋的な施設が整っている。このようなリゾートは美しく、観光客がその他の、万という心が痛むような生活を強いられている人々を見ずに、エキゾチックなインドの味を体験できるようになっている。インドで売られているアメリカの食べ物 (インドの大半で牛肉は敬遠されている) も、食生活のちがいた、牛への崇拝から、アメリカ本来の物とは極めて違っている。人々が、水も電気も無い小さな掘っ立て小屋に住んでいるムンバイへ帰ってみると、ゴアが飛躍した観光都市であることはもちろん明確である。ムンバイの建物は、竹でできた手作りの足場を使い、数人の男性が建物建設のための溝を小さな碗で掘り、建てられている。

国境を通じて観光を増量をさせるには、インドの首相が、「インドすばらしい、行ってみよう」キャンペーンを他の発展途上国に興味をもたすように促すことである。「インドすばらしい、行ってみよう」キャンペーンは、インドのいい部分を大題的に焦点をおきほかの国へアピールし、それで観光業仕事の機会を増加させる仕組みである。キャンペーンは、インドで国の美しさを伝えることだけでなく、文化も教えることが目的である。インドみたいな国を訪れることは、大きな築きもたらし、いろいろなことについての違いを発見することになるであろう。その結果、観光庁は、インドをエキゾチックで大変興味深い国と評している。

アメリカに早く帰りたいと祈った時期があるにしても、この経験は何とも変えることの出来ない、私の目を開くものであった。私は、バスの中で眠らずに人々の生活を眺めるなどといった、小さな事からインドをたくさん知ることができた。人々の生活環境は私の心を日々避けさせた。インドはインターネット・カフェがどこの街角にもあるような先進技術国であるが、その反対、人々は道端に掘っ立て小屋を建て、私が見たように、その「ドア無し」掘っ立て小屋から毎日バケツのシャワーを浴び、電気が無いため、日が沈むと同時に休み、女性は衣類を溜めた雨水で衣類を洗うのである。インドという国は、これから観光を盛り上げお金を作る必要がある国である。これから先何年か、今まで縮小していたグローバル観光が、集中しいろいろと国を帰ることとなるだろう。インドは、私をいろいろな意味で驚かせたが、あと何年後かにまたインドにもどりただけ発展したかを見るのが楽しみである。も

し、自分の殻を破り新しい発見をしたいならあの文化豊かなインドをお勧めする。

マック・ライスバーガー：台湾の国際化

By: Jason Jiau

皆さんをご存知のように、国際化の現象は経済的に、そして文化的に我々の生活を影響し続けている。この国際化を私が特に気づいたのは、数年前の休暇に台湾へ旅行した時である。マクドナルド社は、ファースト・フードの世界進出と「10 億人への提供」で有名なファースト・フード・チェーンである。

台湾の高雄（中国で 2 番目に大きな都市）ではよく見られる暑く湿気の多い夏の午後、私はあまりの空腹に、急ぎ軽い食事をすることを決めた。安く早い事でよく知られている Mickey D's の金色アーチをご存知であろうか？

私の弟と私はレストランに入りすぐ、アメリカと台湾の接客の全くの相違に気がついた。我々が最初に気がついたことは、清潔感である。我々が注文をするためレジへ近づくと、従業員らは本来の客に接するべき誠意的対応（アメリカ CHEUNG/AP カではしばしば忘れられた行為）で我々を扱った。注文が済むと、キャッシャーは注文品をカウンターの上に並べ再確認し（間違いの無いよう）、丁寧にバッグを折り、礼儀正しくそれを我々に渡した。

注文した品物を待っている間、私はメニューも異なることに気がついた。ハンバーグをロールに置くのではなく、むしろグリルで焼かれた 2 つのライス・ケーキの間に挟んだ「ライス・バーガー」は、ローカルの味覚が豊富に含まれている。

この経験から、私は各国の文化ごとによるサービス・スタイルの変化を認識することができた。また、特殊工夫によるローカル適応化はフランチャイズの世界的成功にはかか



せない重要な要因である。台湾の従業員とアメリカの従業員の労働観の違いを比較することは非常に面白く、特に台湾の従業員の注文を取る正確さやテンポの違いは、速さを重視するアメリカ人のサービスと異なるものであった。マクドナルドのメニューの拡張は、マーケティングの地域文化における影響を非常に強く示している。

本稿は、文化の違いが、強く標準化された社会に大きな影響を及ぼすことを示しているのであり、アメリカと台湾のサービスの優越を比較しているわけではない。将来あなたはライス・バーガーを楽しみ、耳にし、見かけるたびに国際化を思い出すであろう。

の特徴

By: Ashley Roucroft

レストランオーナー、Michael Mack は、世界で初めてウェイトレスのいないレストランをオープンさせました。ドイツの Nureberg に位置する Baggers は、自動にメニューオーダーするシステムと導入させた最初のレストランであり、ごく普通のウェイトラーのサービスを受けるより、お客さんは自分のタッチスクリーンコンピューターを手動させることになります。システムは、テーブル、バーのちょうど横となりに位置しており、テクノロジーの進歩とともに、この新しいコンセプトが食産業で改革をもたらすことになるのでしょうか。このシステムは、お客さんが注文したいもの、どのように調理してほしいかなどがより性格に伝達されることを目的にしています。このシステムは、料理がテーブルに運ばれる時間を想定できることだけではなく、二階のキッチンからスロープで料理がはこばれるのです。このすばらしいシステムの



おかげで、料理がいろいろな色のカーターで運ばれ、お客さんはそれを体験するのです。

Baggers のメインゴールは、ごく普通のレストランシステムから抜け出すこのなのです。このレストランの特徴は、海外に進出し競争をしたいのだけではなく、お客さんを驚かせたいのです。Baggers は、どこのレストランよりも顧客満足度を最大にしたいのです。レストラン知識として、Baggers は、レストランにおいてお客さんが受けるべき接客をウェイターが100%満たせてないのではと感じています。このことを高めるために、Baggers はウェイターの削減は重要だと感じたのです。なぜならば、レストランはいつも顧客の満足を追求しそれを越えることに意義をもたらすからです。

また Baggers は、新鮮な材料とともに新しいメニュー週ごとに政策しています。レストランは、少し手を加えたフランス料理を提供し、その材料は、すべて有機栽培であるとともにカロリーが低く作られています。低脂肪、低カロリーにもかかわらず、絞りたて摘みたて材料で最高の料理を手ごろな価格で提供します。

Michael Mack は、この新し設備は、レストラン産業のために大きく役立ち、毎晩100席あるシートが満員になるところで、そう実感しているのです。この新しい試みは、ドイツ国内でとても人気であり、Mack は 海外にも進出して成功すると信じています。もしかしたら、ファーストフード業界にも進出できるかもしれないと踏んでいるのです。料理の品質は、とても珍しくレストランでの体験は、未知に満ちているのです。「Baggers の ファーストフードは、ファーストグッド」と最後にくり、このレストランの紹介を終わりたいと思います。

International Sport

New Stadium Defies Gravity

By: Marisa Judge

きっとあなたも見たことあるのではないだろうか。外壁をレンガで覆われたスポーツ・スタジアム、到

る所まで伝説が染みこんだチームを象徴する銅像。これらはまさに“古き良きアメリカン・スタジアム”の特徴であるといえよう。しかし残念なことに、今ではその大半が劣化してしまい“ベテラン・スタジアム”になってしまった。リンコロン・ファイナンス・フィールドやシチズンバンク・パークなどが芸術的なスタジアムがあるが、やはり一番革命的なのはエスタディオキバス・スタジアムであろう。エスタディオキバス・スタジアムはラスキバス・サッカークラブのホーム・スタジアムとして使われている。エスタディオキバス・スタジアムでは、フィールドや観客席、娯楽設備などは全て内側に建設されている。白い球状形の布がドーム上に被さるように固定されており、まるで活火山から白い噴煙が昇っているようである。



驚異的な進化を提案してきたのはフランスのマッソウポゼット・スタジジオである。彼らはHOK型コンクリートを積み上げ、重力に逆らって垂直に建てるという。このマッソウドパウセット・スタジジオは何層にも分けて建てられる。ドーム内側が空洞になるように強い基礎材を積み上げていく。次にユニークな造りの駐車場、つづいて半球状の選出達や観客の出入り口に球状形の観客席。そして最後の層が、言うまでもなくスタジアムの象徴である白い噴煙となるのだ。

エスタディオキバス・スタジアムは4万5千人の観客を収容することができる。観客席は驚くべき程に快適で面白い造りをしている。315席のプライベート席を備え、また222席が体の不自由な人やその付添いの人達に提供されている。驚くことに、エスタディオキバス・スタジアムは将来的に8千台以上の

駐車スペースを確保するとのことだ。100 を越えるレストランや飲食スペースなどがあり、どれも独特なデザインで観客を楽しませる。スタジアムはこれから観賞部屋やグッズ売店、休憩所などを建設する予定だ。

また 815 個もの液晶テレビがスタジアムのあらゆる場所に設置される予定であり、スクリーンにはつねに試合の状況だけでなく、観客のための情報が映しだされる。

競技場はメンテナンスのしやすい仕様になっており、経済的な造りといえる。エスタヂオキバスは、ファイバーでできた人工芝になっている。グラウンドの表面は、水を流しだすつくりになっており、バクテリアの繁殖を防ぐ加工がなされている。

観客の声援がスタジアムと呼応し、グアダラハラ街全体の声援になっていくのである。その他に、二つの高層アパートメントの建設が予定されている。しかし、これらのプランを十分にメキシコの文化に融合していけるのが、重要になってくる。そしてそれを克服した時が、まさにエスタヂオキバスが地球上最も美しい人類の創造物になる瞬間であろう。

スタジアムについては下記のウェブサイトまでお問い合わせいただきたい。

www.estadiochivas.com

Inside Dish with International Sports Economist

By: Rachel Frankwich

Stefan Syzmanski は、経済学とビジネススポーツ学を専門に研究している学者で、博士号を Brikbeck College で得た後、ロンドンにあるビジネス学校で働きました。彼は、今 Imperial College で働いており、彼はまた本の出版も手がけています。彼のもっとも最近の出版物の一つに、「National Pastime: How Americans Play Baseball and the Rest of the World Plays Soccer.」があり、その共同著者である Andrew Zimbalist がスポーツの歴史、そして今日の

スポーツがどうやってここまで発展したかを議論しています。

Syzmanski 氏とのインタビューの中で、私は、なぜ彼がスポーツ経済学へ転進し、国際スポーツへの普及という分野での研究に力をそれほどまで注ぐのかを探求したいと思います。

質問：何がそれほどまでに、従来の経済学者からビジネススポーツ経済学者へと転換させたのですか。

答え：私自身、従来の経済学者として、マーケットにおけるビジネスと顧客の相互作用研究しており、それはとても細密で複雑なものです。それが、たまたま私は、ユニークなビジネスの形態であるスポーツリーグビジネスを見つけ、選考したまでなのです。また、この特殊なビジネスの裏側にある改革的なものを理解することにも、興味があります。

質問：アメリカでのスポーツ経験と国際スポーツの経験をお持ちですが、その二つの違う点を教えてください。

答え：リーグレベルにおいて、一番大きい違いは、昇格降格と規制でしょう。リーグの中の弱小チームは、ジュニアリーグへ降格され、ほかの上手なチームと交代させられます。特にヨーロッパでは、その考えが当然と考えられているなか、アメリカでは、その昇格降格と規制がどのように応用するのか、理解に苦しんでいるようです。

質問：どのように国際的なスポーツリーグとアメリカスポーツのリーグの違いが、競争のレベル、ビジネスとしての成功のレベルへ影響するか。

答え：昇格降格と規制は、経済的競争をチーム同士で生み出すが、テキストにいつものっているような完璧な経済競争でない。というのもアメリカのリーグ、たとえば、National Basketball League や National Football League などは、公共に閉鎖されだれしも



がチームを作れるわけではない。それは、独占事業にたとえられるかもしれない。これでは、昇格降格と規制は、めったにお金と稼がないことになるが、その一方で独占企業は、お金を稼ぐであろう。しかし、面白いことに、この二つの構成は、ファンが楽しむためには成功しているのである。

質問：アメリカは、常にサラリーキャップについて討論しているが、サラリーキャップは、リーグで設定されると成功につながるとおもいますか？

答え：もしそのシステムを導入すると、同じリーグにおいて、強いチームと弱いチームが対戦するときには平等ではなくなるからです。

質問：あなたは、NASCAR が理想的なモデルと話されていますが、それは、どうしてですか？また、NASCAR モデルは、もうすでに存在しているスポーツ組織に導入することができるかとあなたは信じますか？

答え：私はそう思いません。しかし、チームの競争組織からリーグマネージメント組織が、よりよい競争状況を生むでしょう。クラブオーナーとリーグが、その事柄においてなかなか賛成できないのです。すなわち、リーグごとのマネージメント、アクティビティが、よい決断を生むのです。結局、私たちは、Wimbledon でのテニスの試合や、US Open でのゴルフの試合の規制を一緒にはできないのです。

質問：アメリカで、私たちは、スポーツは主な娯楽と考えられており、さまざまなスポーツを経験することに贅沢にお金を使うことを選びます。スポーツの経験のために、アメリカか外国、どちらが多くお金を費やすと思いますか？

答え：経済的に、私たちは、お金持ちとは、生活に必要な金額よりも多く稼ぐことを提示し、1%収入が増えるだけで1%支出も増えるのです。スポーツ娯楽は、贅沢なものと考えられており、アメリカ国民がもっともそれにお金を費やすとされています。しかしながら、日本ヨーロッパ、そして次に中国カナダもそう違いはありません。

質問：クリケットのようなスポーツの観客は、上流階級が大多数というアメリカの固定観念は、はたして国際的な統計学で見ても同じですか？

答え：固定観念を信じないでください。クリケットは貧富の差関係なく、インドで一番有名なスポーツです。しかし、テレビなどで放送されるスポーツのほとんどが、利益目的のために、中流や上流階級の人々を対象としているのも事実です。このことは、実際のところアメリカのように、インド（インドの中流階級は全体の約300万家庭）にいたっても言えることだと私は考えています。

質問：ロンドン・オリンピック開催にあたって、都市の超過歳出が話題になっています。莫大な費用のかかる競技や人口過密なロンドン都市を考えると、オリンピックは果たして、ロンドンの経済にに対して、プラス否マイナスな影響を与えるのでしょうか。

答え：私はロンドンが満足のいく競技を主催することができるとは思えません。しかし、9万ポンド（18万ドル）の出費が予測される建設は、何らかの形でもわずかな利益をもたらす事が考えられると思います。ほとんどの施設は使用可能な状態であるとは到底いえないうえ、抽選を引いた残りの利益のほとんどは、イギリスの文化やスポーツ施設の建設に費やされてしまわれることが予測されます。かくして私たちは、多額の金額をこの3週間の華やかなお祭りに費やしているのです。

テロの恐れが国際的に増えていく一方で、旅行しようとする人たちの増加傾向が見えますが、この傾向が国際スポーツイベントに影響をもたらしていると思いますか？

テロの恐れが今でも国際的に増え続けているかはわからないが、1972年にMunich Olympicsが開かれた際、多数のテロ襲撃が起きました。その年には、PLO Baader-Meinhof, ETA, IRA 爆弾事件、ハイジャック、暗殺事件などが起きました。この様に1970年代に起きた様々なテロ襲撃事件に比べると、テロ襲撃は大分少なくなったように思います。さらに1970年代に比べ、現在の海外への旅行者数が急上昇しているため、飛行機や旅行時のテロ襲撃のリスクが大分減ったように思います。それにも関わらず、テロ襲撃は起こるかもしれません。しかし、もし事件が起こったとしてもその衝撃が長期間になることはないと思います

Featured Professional/Organization

国際化に励む団体

By: Joy Okoro



ここ3年間、National Society of Minorities in Hospitality (NSMH)のテンプル大学観光学支部 (STHM)は最も国際的な学生の受け入れのトップ争いをしている。この団体のリーダーが変わって以来、NSMHはテンプル大学 又近郊の大学での国際化に力を入れている。

NSMHは1989年にコーネル大学で創設された。その歴史の発祥は、黒人 (African-American) のために観光業界で働く機会を提供することである。以来、NSMHは全米の1000人のメンバーを越える団体として成長し続けている。

NSMHは全ての学生にネットワーキング、インターンシップそして就職の機会を提供する存在である。毎年この団体では、メンバーがスポンサー (権力者) やインターンシップを受け入れている企業との交流を育むため全米で学会が開かれている。

今年の学会は10月26日から28日の3日間コネチカット州のハート・フォード大学で行われる。又 MISSION POSSIBLE (可能な任務) と題された第19回 NSMH 会議は2008年2月21日から24日の4日間 ペンシルヴァニア州 ピッツバーグのウェスティン・コンベンションセンターで行われる。このような国際的な団体は、生徒たちのリーダーシップを育む手助けをしている。ここテンプル大学では、もっと国際化にするため インターネット (且つ電子機器) をベースとした組織を設立した。その指導

者グレゴリー・デシールズを向かえた観光学部支部ではメンバーをまだ募集している。この組織では、学年問わず全ての学生にネットワーキングの機会を提供している。

国際的を売りにしているNSMHは、メンバーに他の生徒たちよりも就職の際 有利の立場を与えている。この団体のモットーは“今日の学生は明日のリーダー”。このテンプル大学観光学部支部全ての学生が多様なチャンスを与えている団体に参加するべきであろう。且つ、彼らがSTHMの友人たちにも伝えられるといいだろう。

STHM Welcomes

Dr. Yvette Reisinger

By: Bethany Whitstone



テンプル大学観光ビジネス学部は、イベッテ・ライシンガー博士が、助教授として我々学部教員の、新しい一員になる事を心から歓迎する。ライシンガー博士はテンプル大学に来る以前、オーストラリアに20年間滞在し、ゴールド・コーストにあるグリフィス大学 (Griffith University)、メルボルンのビクトリア大学 (Victoria University)、モナッシュ大学 (Monash University) に勤められ、モナッシュ大学では観光ビジネス学部企画管理責任者として活躍され、その後フロリダ国際大学 (Florida International University) 観光ビジネス学部、理事兼助教授を務められた。

ライシンガー博士は、ツーリズム・マーケティングの博士号をオーストラリア・メルボルンのビクトリア大学で取られ、修士号に関しては、観光ビジネス開発学 (Business in Tourism Development) をオ

ーストラリアで、国際観光における経済社会科学 (Economics and Social Science with specialization in International Tourism) をオランダの統計企画大学 (University of Planning and Statistics) で修学された。

ライシンガー博士はツーリズム・マーケティングとリサーチの専門家として良く知られており、彼女の主な研究は「異文化交流における旅行者の習性」、「ツーリスト・マーケット・セグメンテーション」、「国際観光に対するデスティネーション・マーケティング」の分野で行われている。特に異文化交流の研究に関しては、アジア観光に力を入れており、中国、日本、韓国、タイ、オーストラリアにおいて研究を行っている。ライシンガー博士の研究は、アジア観光市場における新しいツーリズム・マーケティング・セグメンテーションの基準と手段を発展させる重要な鍵となっている。

ライシンガー博士は、観光学における文化理解の大切さを題材とした、「観光における異文化交流の習性、概念と分析」(Cross-Cultural Behavior in Tourism: Concepts and Analysis) という本を著作しており、書籍は北京語に翻訳されているだけでなく、国際的にも学生や研究者などに幅広く読まれている。現在博士は2008年出版予定の、観光業界における文化の違いの理解と、休暇経験に対する国際観光市場の影響を論題とした新しい本、「国際観光、文化と習慣」(International Tourism: Culture and Behavior)の執筆を手がけている。

ライシンガー博士は現在、「デスティネーション・マーケティング」と「国際観光」という2つの大学課程の授業を受け持ちし、デスティネーション・マーケティングでは双方、国内、国際環境に対するデスティネーション・マーケティングの概念、理論、そしてアプローチに焦点をおいている。また、国際観光に関しては、多文化的な環境における国際観光の影響を主題としている。

ライシンガー博士は、将来観光市場において重要になるであろう、観光の世界的観点の大切さを、担当する全学生が理解することを願っている。双講義を受講している生徒として私は、博士のすばらしい研究と経験が、直接体験によって集められた世界

中に関する知識と混合し、貴重な観光ビジネス学部教授員の一人となる事を述べたい。改めて、ライシンガー博士をテンプル大学観光ビジネス学部に歓迎したい。

SAVE THE DATE!

8th Annual Women's Entrepreneurship

Conference- Fox School of Business

Date: October 18, 2007

Time: 8:00 AM - 11:30 AM

Location: The Great Court at Mitten Hall

The Costume "Bowl"

Date: October 28, 2007

Time: 6:00 PM - 11:00 PM

Location: St. Monica's Bowling Alley

COSTUMES REQUIRED

16th Annual STHM Career Day

Date: November 7, 2007

Time: 9:00 AM- 12:00 PM

Location: The Great Court at Mitten Hall

Semi-Formal - "Around the World in One Night"

Date: December 6, 2007

Time: 6:10 PM - 11:30 PM

Location: Top of the Tower

翻訳を手伝ってくださった観光ビジネス学部の日本人の方々に改めて御礼申し上げます。

広報部一同

